

水平線【院長コラム 2026 年 10 月】

秋の楽しみ

秋が深まると自転車（ロードバイク）でよく遠出をした。60 才を超えてからは紅葉期の大銀杏を見に行くようになった。自転車を漕いで感じるのは、紅葉、キンモクセイの香り、モズの鳴き声、そして山間を縫うようにして走る国道のはるか下から聞こえる富田川の音だ。理由はよくわからないが、秋の川音は夏よりも大きくはっきりと耳に入るように感じる。喘ぎながら難儀して上流域まで漕ぎ上ると、国道から少し入った所に大銀杏がある。この木は樹齢 400 年といわれ、葉が色づくとは何キロも手前から深緑の山に黄色の置物を置いたように見え、近くで見るとその大きさと迫る色に圧倒される。風景を堪能しての帰り道は下りで楽なのだが、高速なので寒くなり楽しむ余裕は少ない。苦しくてもゆっくりと走った方が感じることが多い。

ほかにも生まれ故郷の橋本へ紀ノ川沿いに漕いでゆき、紀ノ川とともに里山まで伸びるオレンジ色の柿畑風景を見ることもあれば、有田川に沿って東上しそろそろ色づくミカンの黄金色が標高によって変わるのを楽しむこともあった。

26 才の秋に生まれて初めて組み立ててもらった自分のロードバイクは驚くほど軽量で、ハンドル操作やペダルを踏む軽さは未体験のものだった。これに乗ったらどこにでも行ける気にさせてくれた。今乗る自転車は何度か代替わりしてより高性能だ。しかし、最初に感じた面白さは 40 年以上経っても変わらない。もう速くは漕げないが、秋はいつまでも自転車に乗るのが好きだと言える季節だ。